

イギリスの大学入試制度

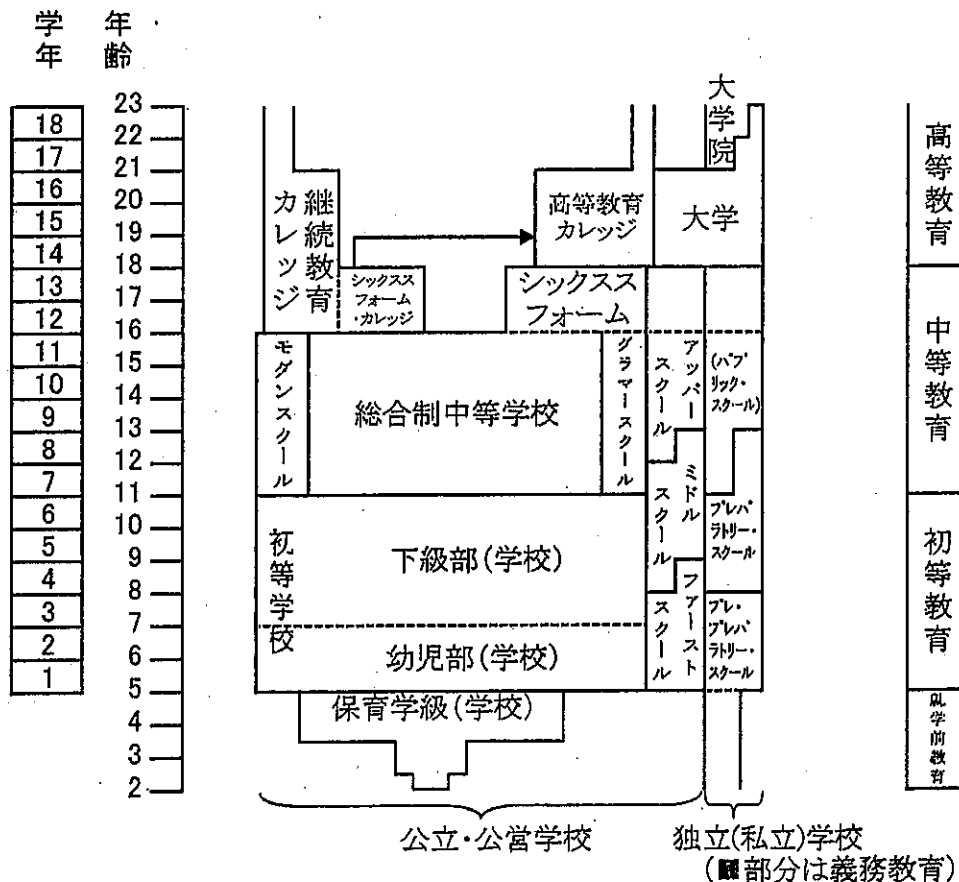
山村 滋 (大学入試センター)

1. イギリスの教育制度の概要および大学進学率

* 高校 (12・13 年次) : シックスス・フォーム (中高一貫校の後期課程)
シックスス・フォーム・カレッジ

* 高等教育機関 : 大学 (3~6 年)
高等教育カレッジ (2~3 年)

* 高等教育進学率 : 2002 年現在 : 38%
ただし成人 (21 歳以上) の入学者を含めると 63%
(出所 : 文部科学省『教育指標の国際比較』[平成 18 年版])



出所 文部科学省『教育指標の国際比較』(平成17年版)

図1 イギリスの学校系統図

2. 大学入試制度の概要

2.1 入試に用いられる試験

* 個別試験はない

* 共通試験（科目別の学力認定試験）

GCE A レベル(General Certificate of Education, Advanced Level : 主として 18 歳対象) アカデミック

VCE A レベル(Vocational Certificate of Education, Advanced Level : 主として 18 歳を対象) 職業教育的

GCE AS レベル(General Certificate of Education, Advanced Subsidiary Level : 主として 17 歳を対象)

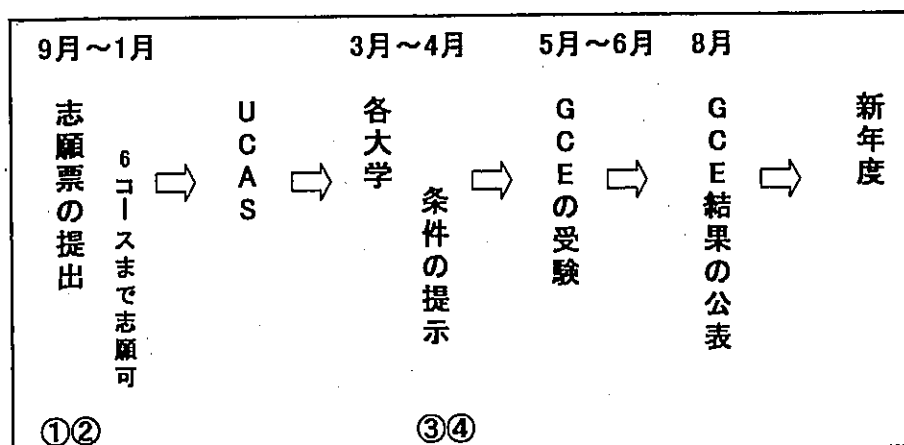
GCSE(General Certificate of Secondary Education : 主として 16 歳を対象)

このうち合格に大きな影響を及ぼすのが GCE A レベル
評価 : グレード制 (A~E)

・ 実施団体 : 大学や政府から財政的に独立した試験実施団体(Examining Board)

・ 高校生の履修科目数 : GCE AS レベル : 5 科目程度
GCE A レベル : 2~3 科目程度

2.2 入試の流れ



UCAS: Universities and Colleges Admissions Service(大学・カレッジ入学サービス)

図2 入試の流れ

①願書 : GCE・GCSEなどの成績およびこれからの受験予定
志願者の情報 (志望理由、将来の希望進路、興味関心など)
校長・教員などからのコメント

②コース要件

例：ウォーリック大学 化学コース

- ・ A レベルに換算すると 3 科目以上の合格（見込み）が必要
- ・ 指定科目（合格・合格見込み）
 - ・ GCE A レベルの化学でグレード B 以上
 - ・ 化学以外の理科での GCE A レベル
 - ・ GCE AS レベルの数学

③合格条件の提示

- ・ 合格
- ・ 条件付き合格 ← 一般的：多くの志願者は GCE の受験前だから
- ・ 不合格

条件付きの例：たとえば、上記のコース

化学 A レベル グレード A

物理および数学 A レベル グレード B 以上

④志願者：第 1 志望、第 2 志望を決定

2.3 出題教科・科目

生物学、数学、会計学、演劇など 60 教科以上で、それぞれの教科内に複数の科目があり、100 以上の科目がある。

2.4 GCE A レベル試験の概要（出題・解答方式の特徴、採点方法）

合否に中心的役割を果たす GCE A レベル試験では、アカデミックな学力が伝統的には重視されている。

評価：A～E の 5 段階。E に達しないと不合格

GCE A レベルは 6 つのユニット（ユニット：各試験科目に関する教育内容のまとまり）から構成される。

まず 12 年次で 3 つのユニットを学び、AS レベルを取得する。

その後、13 年次で後半の 3 つのユニット(A2)を学び A レベルを取得する。

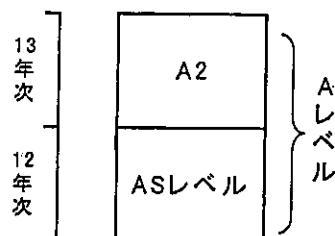


図 3 AS と A の関係

* 出題・解答方式の特徴

GCE A レベル：記述式

伝統的には、大学教育を前提とした中等教育段階での準備教育における達成度を評価する。

各教科・科目に関して、当該のコースの目的・目標、評価する能力・技能、配点等についての仕様書 (specification) が各 Examining Board によって作成され公開されている。

作題者：中等学校教員・大学教員。各 Examining Board が任命。

* 採点方法

採点は、Examining Board が雇う採点者(当該教科の教職経験のある者が多い)が行う。評価水準を一定にするため、各採点のチェックが行われる。

2.5 個別試験

個別試験はない。受験生によっては合格条件が提示される前に、面接が実施される。

3. 最近の動向とわが国への示唆

①「カリキュラム 2000」改革、および、その後の英国バカロレア(ディプロマ)の提案

* 「カリキュラム 2000」改革：

履修科目数の拡大、AS レベル(17 歳) → A レベル(18 歳) という制度へ

* 英国バカロレア(ディプロマ)：複数の領域・科目にわたって包括的に資格認定

もともとイギリスは科目に関しては多様

狭く深く → 幅を広げる方向へ。さらに、独・仏型へ接近
・・・日本とは逆の動き

一定の幅広さが、これから高等教育で学ぶために必要

②「学力水準の維持」

A レベルの改革に際しての最大の反対理由：水準の低下の恐れ・・・わが国では？

↑
従来：A レベル(2・3 科目)を深く学ぶ
↓
より多くの科目を
↓
A レベルの水準下がる

↓
水準を下げないひとつの工夫
→ 「カリキュラム 2000」改革